

<市民活動情報 vol.79> 北海道立市民活動促進センター 2020.3 発行

# アセソ



特集

市民活動の基礎知識  
市民活動相談あれこれ

北海道中間支援MAP

北海道中間支援センター研修&交流会

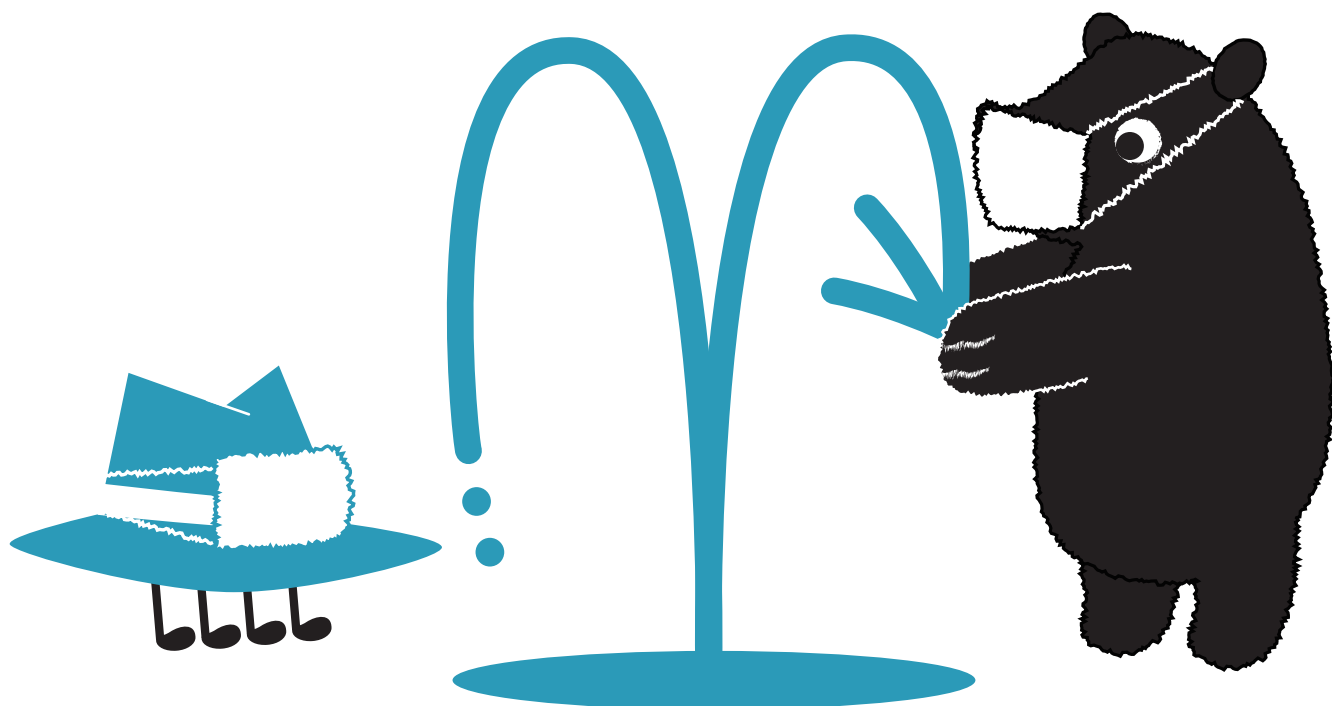
2019 市民活動スタッフ養成講座

2019 公募企画講座

2019 中間支援組織事業支援

2019 市民活動ステップアップ講座

センターからのお知らせ





# 特集

## 市民活動相談あれこれ

中間支援施設である北海道立市民活動促進センター（通称：しみセン）は、市民活動に関する相談や助言と研修会などを開催しています。特に市民活動相談は、当センターの重要な業務のひとつです。今回は、過去3年間の相談内容の概要をご紹介します。活動にともなう悩みやとまどいの解決の一助となればと思います。

### 1 データから見る市民活動（NPO法人）

1988年の特定非営利活動促進法（NPO法）施行から20年以上が経過しました。日本全国で認証されたNPO法人数は、2017年度の51,868法人をピークに緩やかに減少しています（※1）。そのようななか、北海道では2018年度も認証される法人数は増えています。2019年度も2月、3月分が加算されれば前年度の認証数を超える可能性があります。

しかし、2018年度までは認証数が解散数を上回っていましたが、2019年度（2020年1月末時点）では両者が逆転し、解散数が認証数を上回りました。

また、2001年には認定NPO法人制度が創設され、2011年の法改正を経て認定数が急増しました。2019年度も前年度を超える認定数です。

2020年1月末現在での認定NPO法人数は1,142法人（内閣府ホームページより）。北海道内の認定NPO法人もゆるやかに増加しており、その半数以上は札幌市にあります。

北海道の面積は広大で、日本の約5分の1を占めます。そして道内には東京都、大阪府、京都府、愛知県の市町村を足した数よりも多い、179の市町村があります。人口は札幌市をはじめとする都市部に集中し、NPO法人の数もおなじ

傾向にあります。

2012年9月末でNPO法人が設立されていない自治体は、道内市町村の約2割弱に当たる35市町村（※2）でした。しかし、8年後の2019年6月にはNPO法人の主たる事業所がおかれていない自治体はなくなりました。

同時に、NPO法人の認証申請事務の権限移譲をし、認証事務を行う市町村の数も年々増えています（※3）。思いのほか、人口の少ない自治体にも所管窓口があり、NPO（任意団体）やNPO法人との協働のまちづくりを進めている市町村も多くあります。また、2008年12月に施行された公益法人制度改革では、一般社団法人などの設立へのハードルが下がり、公益法人の選択肢が広がりました。

近年は小規模多機能自治の観点もあり、町内会などの地縁団体の役割なども見直しが行われています。多様なまちづくりの担い手はNPOやNPO法人だけに限らず、町内会、農協や商工会などの産業団体、学校などのさまざまな組織が存在し、協働が必要な社会になりました。今後もNPO間の連携・協働や、不測の事態が起こった場合の対応など、市民活動を行うみなさまには、活発で有効な市民活動を行えるよう、各地域にある中間支援組織を有効活用していただきたいと思っています。

表1：北海道内のNPO法人申請認証数等のデータ

	NPO法人総数	認証	解散	認定NPO総数	うち札幌市
2017年度	2,156	92	62	38	16
2018年度	2,170	76	62	40	16
2019年度	2,166	44	47	41	17

※転入により認証数が不一致の箇所もあります

※2019年度は2019年4月～2020年1月末までの集計数です

表2：しみセン相談内容内訳

	2017年度（全188件）	2018年度（全161件）	2019年度（全107件）※
第一位	法人格取得（47.9%）	法人格取得（44.1%）	運営マネジメント（60.7%）
第二位	運営マネジメント（34.5%）	運営マネジメント（41.6%）	法人格取得（21.5%）
第三位	助成金関係（5.3%）	市民活動基礎（5.0%）	助成金関係（7.4%）

※2019年度は2019年4月～2020年1月末までの集計数です

## 2 しみセン市民活動相談の内容

当センターの過去の相談内容では、NPO法人格取得など団体設立の相談が受付総数の半分近くを占めていました。NPO法人以外にも、任意団体設立時の趣意書や規約に関する相談もあります。活動の内容や規模、目的に沿った法人格（法人の有無を含めて）のアドバイスも行います（株式会社等営利目的の起業に関しては、相談業務外となります）。

今年度は、団体運営マネジメントの相談が多くありました。活動の広がりに伴い、連携団体先の紹介（探し方）や協働の留意点に関するアドバイスも増えてきました。設立時に相談に来られた団体が、運営に関しても相談に来られているようです。

ほかには、団体内の人間関係に起因するトラブル相談もあります。外からの意見を聞くことで、解決の糸口が見えることもあります。ひとりで悩まず、お近くの中間支援組織や支援センターへご相談ください。

年に数件ですが、法人解散についての相談もあります。目的を達成して活動完了となる団体や発展的解散もありますが、世代交代がうまくいかないために解散という選択をする団体もあるようです。どのような理由であっても、団体としての活動を終了するときには、最後まで責任を持つことが必要だと考えます。団体として最後まで、きちんと整理することをお勧めします。

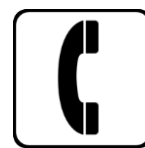
また、団体運営とお金の話は切り離せません。会計、経理に関する相談だけでなく、助成金獲得やファンドレイジングの相談もありました。休眠預金が動き出しているため、市民活動の資金獲得方法は、さらに多くの選択肢が増えるでしょう。

資金に関する相談は、件数としてはあまり多くありませんが、団体運営で頭を悩ませることのひとつであることは間違いありません。入会金や年会費などをしっかりあつめる啓発型の獲得方法、事業を活用して資金を得る事業型など、どんな形での資金調達をするのか検討しましょう。

円滑な団体運営は、活動に集中するための基礎のひとつです。悩んだら、まず相談してみるという気持ちで、お気軽にご相談ください。当センターでは、来所、電話、メールで相談に応じています。

相談時間を十分に確保するため、事前予約が基本となります。相談時間は、一団体（もしくは1人）2時間を目安に予約をお取りしています。設立時の相談は、趣意書や定款の確認が必要なので、事前に書類をメールなどで送っていただいています。詳細はお電話かメールで、お気軽にお問い合わせください。

### 【北海道立市民活動促進センター】



011-261-4440  
center@do-shiminkatsudo.jp

（※1）内閣府NPOホームページ・全国のNPO法人数

<https://www.npo-homepage.go.jp/about/toukei-info/ninshou-seni>

（※2）北海道内のNPO法人の活動状況（PDF）

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/dms/ks1/NPOkatudoujoukyou2.pdf>

（※3）北海道市民活動団体情報提供システム統計データ

主たる事務所所在市町村別認証数2019年度

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/nposearch/>

Pages/Statistics/StatisticDisplay2.aspx

# 北海道中間支援MAP

【空知】

NPO法人赤平市民活動支援センター  
滝川市まちづくりセンターみんくる

【石狩】

NPO法人北海道NPOサポートセンター  
札幌市市民活動サポートセンター  
石狩市民活動情報センター「ぼぼらーと」  
江別市民活動センター・あい  
えにわ市民プラザ アイル  
まちづくりスポット恵み野  
千歳市民活動交流センター ミナクール

【上川】

NPO法人旭川NPOサポートセンター  
旭川市市民活動交流センターCoCoDe

【網走】

NPO法人北見NPOサポートセンター

【根室】

なかしべつ町民活動ネットワーク  
べつかい協働のまちづくり協議会

【釧路】

釧路市民活動センターわっと  
NPO法人Bonos

【渡島】

函館市地域交流まちづくりセンター

【胆振】

白老町町民まちづくり活動センター  
室蘭市市民活動センター  
登別市市民活動センターのぼりん

【十勝】

NPO法人帯広NPO28サポートセンター  
帯広市市民活動交流センターふれんずびあ  
市民活動プラザ六中  
めむろ町民活動支援センター



2020年  
3月1日現在

## 【北海道の主な中間支援組織や施設一覧】

2020年3月1日現在

	名 称	住 所	連 絡 先
石狩	NPO法人北海道NPOサポートセンター	札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園201	011-200-0973
	札幌市市民活動サポートセンター	札幌市北区北8条西3丁目 エルプラザ2階	011-728-5888
	石狩市民活動情報センター「ぼぼらーと」	石狩市花川北3条2丁目198-1 花川北コミュニティーセンター内	0133-77-7070
	江別市民活動センター・あい	江別市東野幌本町6-43 市民交流施設「ぶらっと」内	011-374-1460
	えにわ市民プラザ アイル	恵庭市本町110	0123-39-3355
	まちづくりスポット恵み野	恵庭市恵み野里美2-15 フレスポ恵み野内	0123-39-2232
	千歳市民活動交流センター ミナクール	千歳市千代田町5丁目7-1 千歳市民ギャラリー4階	0123-24-0847
渡島	函館市地域交流まちづくりセンター	函館市末広町4-19	0138-22-9700
空知	NPO法人赤平市民活動支援センター	赤平市泉町2-2-1 赤平コミュニティーセンター別館内	0125-74-5601
	滝川市まちづくりセンターみんくる	滝川市栄町3丁目6-28	0125-74-6210
上川	NPO法人旭川NPOサポートセンター	旭川市7条通13丁目60-8 ウォーム713 102号室	0166-74-4180
	旭川市市民活動交流センターC o C o D e	旭川市宮前1条3丁目3-30	0166-74-4151
網走	NPO法人北見NPOサポートセンター	北見市北4条西3丁目3 タニビル	0157-22-2055
胆振	白老町町民まちづくり活動センター	白老町大町1丁目1-1	0144-82-5110
	室蘭市市民活動センター	室蘭市中島町2丁目22-1 生涯学習センターきらん2階	0143-83-7751
	登別市市民活動センターのぼりん	登別市緑町1丁目1-4	0143-83-6866
十勝	NPO法人帯広NPO28サポートセンター	帯広市西1条南28丁目4	0155-25-1455
	帯広市市民活動交流センターふれんずびあ	帯広市西2条南8丁目 藤丸ビル8階	0155-20-3004
	市民活動プラザ六中	帯広市東11丁目南9丁目1	0155-24-7598
	めむろ町民活動支援センター	芽室町本通1丁目19 めむろ一ど1階 めむろまちの駅内	0155-62-0413
釧路	釧路市民活動センターわっと	釧路市末広町3丁目1	0154-22-2232
	NPO法人Bonos	釧路市春採2-5-19	090-6218-6061
根室	なかしべつ町民活動ネットワーク	中標津町東6条南2丁目	nakashibetsu.can@gmail.com
	べつかい協働のまちづくり協議会	野付郡別海町別海旭町67-1 別海町交流館ぶらと1F	090-7054-6906

※ 以下の条件に合致する組織や施設を掲載しています（作成：北海道立市民活動促進センター）

- (1) NPOの組織支援を主たる目的としている
- (2) 分野を限定せずに支援している
- (3) NPOの組織相談に対応できるスタッフが在籍し、活動している

※ すべての中間支援組織や施設を掲載しているわけではありません。ご了承ください

※ 当センターのホームページに各組織へのリンクがあります（<http://www.do-shiminkatsudo.jp/center/info/kankeilink.htm>）

2019年12月9日・10日 於：函館市地域交流まちづくりセンター

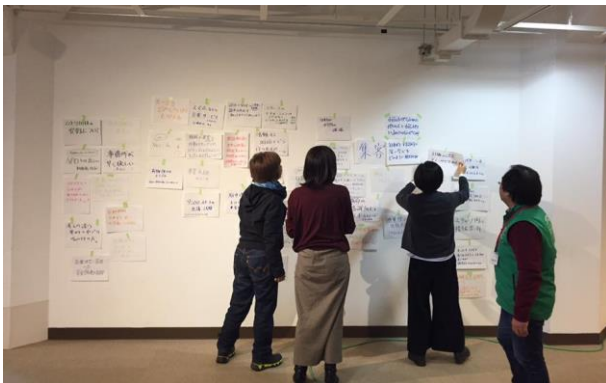
## 北海道中間支援センター研修・交流会

主催：NPO法人北海道NPOサポートセンター



この研修・交流会は、道内の中間支援センターが、情報共有やNPO界隈を取り巻くホットピックについて語り合うという目的で年に一度開催されています。

会場の函館市地域交流まちづくりセンターは、古い百貨店を再利用した歴史的に価値のある重厚な建物で、東北以北最古のエレベーター(手動式)があります。施設内には壁一面をカレンダーに見立てた各団体のイベントチラシの掲示コーナーや、SDGsのワンポイント、市民活動のヒントなどを項目ごとに大きな文字でチラシにまとめた「まちづくりの宝箱」のコーナーなどスタッフの知恵と工夫が随所に見られました。



<中間支援組織のSDGsとの付き合い方>と題した高橋優介さん(describe with 代表「2030SDGs」公認ファシリテーター)のレクチャーでは、理想の未来を描いたうえで何を考えるかを考えるバックカスティング(未来逆算思考)の考え方や、中間支援組織の「今」や「これから」のニーズを知る事の大切さを改めて考えさせられました。また、犬の散歩を例に、

「犬の散歩→町内パトロール→こどもの見守り→若者の共働き家庭、孫も安心」

が、SDGsの目標「8. 働きがいも経済成長も」「11. 住み続けられるまちづくりを」等につながるという考え方は自分事として捉えやすいと思いました。室蘭、旭川、函館など各地の取り組みのについて聞き、SDGsがそれぞれの活動理念と合致し多くの人に共有されることも行動が変わる一歩になると感じました。

各支援組織の近況報告や悩みを共有する二日間はとても貴重な時間でした。私たちしみセンを含め施設の管理運営も行う組織は同じような悩みを抱えているようです。利用者の方々に施設のルールを守りながら気持ちよく使っていただくこと、地域や社会の課題に自主的に取り組む市民の活動をサポートすること、スタッフにはその時々に対応できる臨機応変さとバランス感覚が必要だと思いました。また、北海道NPOサポートセンターによる、解散したいNPOと始めたいNPOをマッチングし、引き継ぎのサポートを行ったという「NPOの事業承継」の事例を聞き「これからのニーズ」を感じました。

決して堅苦しいものではなく終始和やかな雰囲気の中、活発な函館まちセンの様子を現地で見られた事や、各地の中間支援組織の現場で働くスタッフとの交流もとても良い刺激を受けました。ちなみに次回は室蘭を会場に 11、12月頃開催の予定です。

(報告：道立市民活動促進センター 佐藤ゆみ子・寺田路得子)

## 第五回 市民活動スタッフ養成講座（2019年11月19日）

## ファンドレイジング・プレゼンテーション

講師：徳永洋子さん（ファンドレイジング・ラボ代表）



「ファンドレイジング」という言葉は聞いているし、何をやるのかもなんとなくわかっていたつもりで、中間支援センターにはあまり関わりがないように思っていたのですが、今回の講座を受けて、中間支援センターだからできることもあると、他人事ではなく自分事にすることができました。

私自身、中間支援センターで活動をしていて、寄付で何かをしようと考えたことはなく、もらえたらラッキーという寄付を集めるよりも、企画書を書いて助成金をとるという方が楽と考えていました。

講座の中で講師の徳永さんが、「MITASの法則」のお話をされ、「共感⇒関心⇒信頼⇒支援⇒シェア」というお話をされたとき、会員さんの数名を思い浮かべ、段階のどこにいるドナーが多いのだろう…ということを考えました。イベントに来てくれる、手伝ってくれる、意見をくれる、という会員さんや参加者もいて、3つめの信頼までの関係ができていくドナーは多くいるのかもしれないと感じました。

また、「寄付が集まらない、活動が伝わらない」のではなく、「伝え方が違う、伝えていない」という話も聞かせていただき、通常業務の流れとしてやっているホームページの管理や通信を送るなどの作業も、どれだけの人に伝わっているのか、もっと知ってもらい、応援してもらいにはどうしたらいいのかを検証する、考える、ということも必要だと思いました。

寄付というどうしてもお金をイメージしますが、考えてみると事務所の備品や消耗品などを会員さんからいただくこともあり、活動を応援したいという人はたくさんいます。そういう方たちの支えがあって活動を続けているというのを思うだけではなく、形にすることも大切だと思います。

また、中間支援センターとして、市民活動を応援したいけど、どんな活動があるの？ という人たちと地域で活躍する団体をつなぎ、人やモノが回る仕組みを作ることも中間支援センターだからできる仕事なのではないかと思っています。

「ファンドレイジング」とは、共感を得て社会を変えるためにともに行動する仲間が増える、社会が変わること、という言葉をお忘れずに活動を続けていきたいと思っています。ありがとうございます。

（報告：NPO法人旭川NPOサポートセンター 佐野愉架さん）



公開企画講座の報告①

# 中頓別まちづくり ゼミナール

主催：NPO法人旭川NPOサポートセンター

2019年9月13日、旭川NPOサポートセンターでは中頓別町まちづくり協議会と「中頓別まちづくりゼミナール『地域運営におけるNPOの役割』」を開催致しました。

道北に位置する中頓別町は生産年齢人口の急減で町の担い手が不足し、地域の活力が失われている状況にあります。その中で住民が安心して暮らし、持続的な地域経営をするためには、地域コミュニティの活性化が不可欠であり、それをカタチづくる組織の設立が重要になります。本講座はそれを担うNPO設立を支援するとともに、まちづくり支援に資することを目的に実施致しました。

第一部では最初に長嶋が、①芽室町上美生地区、②旭川市西神楽地区、③下川町一の橋地区の活動を紹介しました。これらの地区では、

- イ) 地域運営には住民の自主的主体的な危機意識とニーズの共有、強い意思が必要
- ロ) 財政等に関する行政の支援が必要
- ハ) 事業を継続的に行う為にNPO法人が担い手になっている

等々を報告致しました。

次に北見NPOサポートセンターの谷井貞夫様より、北見市における同団体の活動が紹介されました。

北見NPOサポートセンターでは地域運営に関して、

- イ) 共生型施設の運営支援
- ロ) 北見市住民協働組織づくり支援
- ハ) 地元企業の経営計画づくり共同経営指導

を実施しています。紹介の中では、不可能を可能にするために内外部の人材を活用し衆知を集めること、可能なことは100%を求めずに実行することの重要性が強調されました。

第二部の、協働に関するワークショップでは、双方向型IT機器(クリッカー)を利用した地域課題抽出のためのアンケート調査が実施されました。この調査方法に関しては、「簡単、リアルタイムに集計できる」、「声にならない意見を拾い上げることができる」というメリットがある一方、「設問、選択肢の適切さが問われる」という意見もありました。メリット/デメリットをよく理解して、キッカケとして利用することが重要だと思えます。

最後に講座自体や今後の活動に対する意見交換を行いました。「他の参加者の非営利活動に対する考えが聞けた。」「自分自身の活動と照らして共感が得られた。」という意見がありました。また、「町長の他に2名の議員と2名の町職員が参加されて将来が明るい。」という感想があった他、「協議会事務局に早くNPO法人化して欲しい」という要望も出されました。協議会事務局長からは現状の報告と今後の予定が紹介され、意義深い講座になりました。

(報告:旭川NPOサポートセンター 長嶋正明さん)





公開企画講座の報告②

# なかしべつ景観 まちづくりフォーラム

主催：NPO法人景観ネットワーク

2020年2月22日（土）13時から、北海道立市民活動促進センター、みんなの景観なかしべつプロジェクト（以下、みんなか）、中標津町、NPO法人景観ネットワークの4者主催による「なかしべつ景観まちづくりフォーラム2020～未来を創る なかまをつくる」が開催されました。この事業は、当センターの公募企画講座助成金を元に開催されたものです。

そもそも中標津町は、町民と行政共に景観まちづくりへの意識が高く、この景観まちづくりフォーラムには、中標津町民約40名が参加しました。また地元の中標津農業高校生も準備段階から参加し、町内の任意団体、町外のNPO法人、行政と地元高校などが協働して取り組む事例となりました。特にみんなかは、中標津町の景観まちづくりに取り組む団体として、昨年9月に設立し、活動を開始したばかりで、この場が本格的なお披露目の場になりました。

当日は町長の挨拶から始まり、東京都市大学教授の坂井文先生による講演「中標津町の景観まちづくり～景観はまちのアイデンティティ～」、農高生による「わが村は

美しく北海道運動」、第9回コンテストで大賞審査員特別賞をとった「かぼちゃランタン活動」の発表、みんなか設立挨拶、その後はみんなかの活動部会ごとの活動報告、意見交換会へと進みました。

特にかぼちゃランタン部会が農高生を中心に、大人のサポートを借りながら、幼稚園や小中学校まで計根別地域の多様な年齢層を繋げる活動になっていること、景観調査部会で作成した、沿道景観調査の雰囲気味わえる景観調査アナログ2D1号などの披露、景観学習部会での小学生が作成した大きな模型の紹介などは、大変盛り上がり上がっていました。

その後の意見交換では、農高校生の話題を中心に未来を創る景観まちづくりについて、活発な意見交換がなされました。参加者から出された意見は模造紙にまとめられ、全員で振り返りを行いました。

最後に坂井先生からフォーラム全体への総括と、これからの活動へのエールが送られ、参加した町民は中標津町の景観まちづくりへ向けた課題を考え、持ち帰ることができたと考えます。ご準備にあたった皆様、当日ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

（報告：道立市民活動促進センター 東田秀美）



2019年  
7月18日  
8月23日  
9月19日  
11月6日

## 2019年度中間支援組織事業支援 ③

### 石狩市市民活動情報センター「ぽぽらーと」

みんなが集う「まちフェス」を考えよう！（まちづくりラウンドテーブル）  
「まちづくり」って何？企画の楽しさ、地元愛の深まるイベント企画を体験



地域にずっといると、「日常」に紛れて小さな不満や不便に麻痺をし、簡単に出来るはずの対応策を自ら講じようとする向上心が薄れがちになります。加えて、石狩市では大きなイベントが相次いで中止になった経緯もあり、「楽しみ集う場」「交流する場」の機会が減ったように思っているところでした。そこで、地域の小さな課題に着目できるコミュニティの在り方を「市民企画のイベント開催」という手法を通じて具現化しようとWS(ワークショップ)を開催しました。

参加した市民の皆さんは、創作活動をしてはいるが出店はしたことがない、というアマチュア作家や、「市内の市民イベント」という身近な開催に興味があったという方、石狩市の大きなイベントが長続きしない・市民が楽しめないといった不満があった方が、「自分で企画する」という趣旨に惹かれて参加したとのことでした。

本当にイベントを実施できるような土台作りになればと、一回目は中小企業の経営支援を行う専門家、太田明子氏を講師に招き、「事業計画」「収支計画」「集客力」の3つの課題をクリアする企画の手法を学びました。その後、「誰に」「何を」を意識したワクワクアイデアを全員で書き出し、二回目、三回目とWSを重ね、「市民が出店し、石狩市を石狩市民にPRする場づくり」というテーマでまとめました。実際のイベント開催に近い条件で考えることで、多様な立場からの「参加するメリット」を考えたり、実際の収支を組み立て不足分の資金調達イメージトレーニングを行ったりすることもでき、これまで来場者としてただ行くだけだった皆さんが、「出店者」「主催者」の立場で、俯瞰してものごとを注意深く考えていけるようになったと感じます。

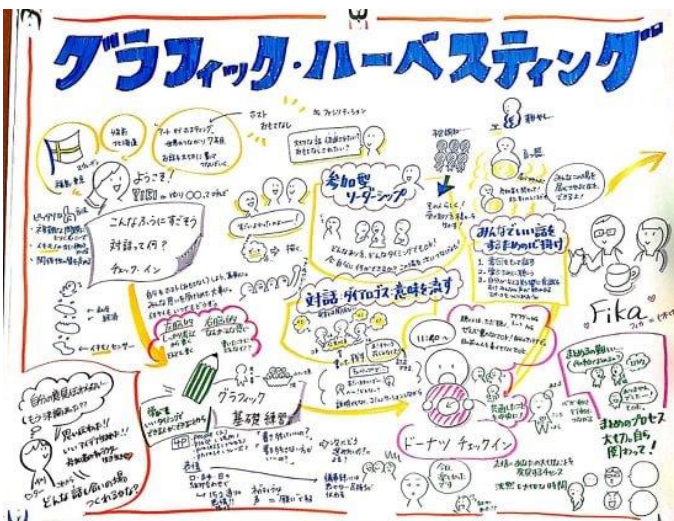
最後に、イベント開催の楽しさを来場者と一緒に共有する手法として会場レイアウトを考え、ニーズを探るアンケートを楽しく行うアイデアを出し合い、全四回のWSを終了しました。

全4回のWS終了後の12月、参加した方が出店者として運営主体となり、小規模に「まちフェス いしかり」を開催されました。準備期間が短いながらもWSの成果を活かし、さらには初めて出店者として、運営委員として実経験を積み、来期以降の活躍が期待される新たな市民活動が誕生したことが、この事業の大きな成果です。（報告：NPO法人ひとまちつなぎ石狩 安藤由美さん）

## 2019年度 市民活動ステップアップ講座 ③

# グラフィック・ ハーベスティング 基礎講座

共催：めむろ町民活動支援センター  
(2020年2月15日)



「結論ありきの会議になっていないか」「自分の意見は生かされているのか」「そもそも参加したいと思える話し合いの場は」…。行政職員と町民活動支援センター職員が共有している問題意識が今回の講座開催を考えるきっかけでした。

「住民主体」という言葉がどの分野でも使われるようになってきた現在、ここ芽室町でも行政と中間支援組織でタッグを組み、地域医療、コミュニティ・スクール、子育て支援など住民参加型の話し合いの場を創る機会が増えてきました。その中で「本当はみんな、こんな風に話したかったんだ！」と感じる瞬間に何度か立ち会う場面がありました。

今回の講師である(一社)サステナビリティ・ダイアログ代表・牧原ゆりえさんは、その経緯を聴き、今、この町で起きていることを受け止め、これから必要な学びについて開催ギリギリまで共にプログラムを検討してくれました。

迎えた当日。共に問題意識のあった行政職員の方が「アイスブレイクになるでしょ」と職場の仲間とコーヒーを淹れ参加者へ提供、場の雰囲気が一気に和みました。大学生、地域活動をしている住民、教員、行政職員、議員など町内外から30名が参加し、対話の原理、絵と文字で記録するグラフィック基礎練習、体験談を聴き描く練習など体験を通して学びました。話をグラフィックで記録することでそこに参加した人たちの思いが受け止められ、大事なこととして残されていきます。その記録を誰に向けてどう活用するかも大事なポイントでした。

休憩時間も含めると7時間という長時間でしたが、参加者の皆さんから講座に対して満足した感想が多く寄せられました。「こんな話し合いがしたかったんです」と直接伝えてくれた方、一人ひとりの思いや経験がすばらしく、そこから学びあえる「本当はすばらしい、隣のアノ人」と表現してくれた方、強いリーダーシップで引っ張っていく時代は終わり、これからはフラットな関係の話し合いこそが持続可能な地域づくりに必要、とメッセージを残してくれた方など、参加者それぞれにとって新たな発見があった講座でした。

一日限りの開催でしたが、企画段階から開催までのプロセスにずっと伴走してくださった講師の牧原さん、そして助成金を活用できたおかげで、初めての方や学生にとって参加しやすい環境を整えることができたことに感謝いたします。この講座での学び・つながりを、受講した方々が今後活用されることで地域づくりがどのように活性化していくか楽しみです。

(報告：めむろ町民活動支援センター 西村有里さん)

# かでの2・7 施設のご案内

かでの2・7には、市民活動促進センター（しみセン）の他にも、道民の学習や活動を支援するセンターがありますのでご案内いたします。どうぞご利用ください。

## 北海道立 生涯学習推進センター

道立生涯学習推進センターは、本道における生涯学習振興の拠点施設として、道民のさまざまな学習が促進され、それらの活動が豊かに展開されるよう支援する施設です。

北海道立生涯学習推進センター（かでの2・7 8階） TEL:011-204-5781



視聴覚教材の貸出	学習相談	指導者養成 調査研究	子育てカウンセリング
団体を対象に講座等で放映可能な教材を貸し出します。送料必要。	PTA 研修会等で呼ぶ講師の相談などに対応いたします。 まなびウイング 011-231-4111 内 36-347	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい地域づくりに資する社会教育事業に関する調査研究</li> <li>社会教育関係者に対し研修会を実施</li> </ul>	子育てに悩みや不安を抱く保護者の方等に対し、臨床心理士による無料の相談を行います。 予約電話 011-261-4545

### いつでも、どこでも、希望するものを学びたい 学びから夢が生まれる 道民カレッジ

道民カレッジは、産学官が連携して、道内各市町村で行われている様々な学習機会を体系化することにより、道民が自らの意思によって学び、自立した北海道の創造に寄与する人材を育成することを目的としています。  
道民カレッジでは、講座を受講すると単位がもらえます。一定の単位を集めると、「道民カレッジ学士」「道民カレッジ修士」「道民カレッジ博士」の称号を得ることができます。

### 情報交流広場「まなびの広場」かでの2・7 9階

まなびの広場では、生涯学習に関する資料を展示、視聴覚教材の視聴コーナー、利用者同士の交流スペースなどがあり、どなたでも利用できます。  
道民カレッジに関する情報提供を行っています。  
道民カレッジ事務局もこちらになります。お気軽にお立ち寄りください。

道民カレッジ



## Women's Plaza

女性プラザは、女性の自立と社会参加を促進するとともに男女平等参画を推進するための場です。個人やグループ・団体で、自由に学び・創り・出会い・語らう“ひろば”として利用できます。

北海道立女性プラザ（かでの2・7 6階） TEL:011-251-6329



イベント・セミナー	情報提供	調査研究事業	相談事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>えるのす連続講座～女性大学～(年2期)</li> <li>女性プラザ祭(11月)</li> <li>男女共同参画週間講演会(6月下旬)他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書貸出 女性問題関連のものを中心に図書を貸出</li> <li>DVD 閲覧 (貸出は要相談)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家事・育児の役割分担に関する調査</li> <li>男女平等参画関連施設に関する調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「女性のための相談室」 無料法律相談</li> <li>女性の活躍支援センター (TEL:011-272-0008)</li> </ul> <p>※詳細についてはお問合せください。</p>

女性プラザ



## 北海道立市民活動促進センター

開館	月～金曜日：9:00～21:00 土・日・祝日：9:00～18:00
交通手段	J R：札幌駅南口徒歩約13分 地下鉄：さっぽろ駅（10番出口）徒歩約9分 地下鉄：西11丁目駅（4番出口）徒歩約11分 公共地下歩道：（1番出口）徒歩約4分



〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル（かでの2・7）8階  
TEL.011-261-4440 FAX.011-251-6789  
E-mail:center@do-shiminkatsudo.jp <http://www.do-shiminkatsudo.jp/>  
指定管理者：(公財)北海道地域活動振興協会

